



濱口梧陵

令和2年7月9日	
資料提供	
担当課	県立博物館 学芸課
担当者	主任学芸員 前田正明
電話番号	073-436-8684

## 「稲むらの火」で有名な濱口梧陵の生涯をたどります。 夏休み企画展「生誕200年記念 稲むらの火 濱口梧陵」の開催について

濱口梧陵(1820～85)は、広村(広川町)にある濱口家の分家に生まれました。12歳の時に本家の養子になり、銚子(千葉県銚子市)で家業である醤油醸造業を継ぎました。安政元年(1854)11月5日に安政大地震津波が起こったとき、故郷の広村に帰っていた梧陵(7代儀兵衛)は、被災した村民救助にあたり、道端の稲むらに火を放ち、暗闇に戸惑う村民を避難に導いたといわれています。梧陵は4年かけて、津波を防ぐ堤防(国史跡 広村堤防)も築いています。

生誕200年を記念して行うこの企画展では、「稲むらの火」で有名な梧陵の事績を紹介します。同時に、梧陵に大きな影響を与えた祖父・灌圃(1778～1837)や菊池海莊(1799～1881)ゆかりの資料も展示します。併せて、県立博物館を中心におこなっている、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業の成果も紹介します。

会期 令和2年7月18日(土)～8月23日(日)  
 開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 入館料 一般280円(230円)、大学生170円(140円)( )内は20人以上の団体料金  
 高校生以下、高齢者(65歳以上)、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料  
 休館日 月曜日(ただし、8月10日は開館し、翌11日は休館)

新型コロナウイルスの流行状況により、変更される場合があります。

展示資料総数 55件77点 うち和歌山県指定文化財 1件1点  
 広川町指定有形文化財 1件1点

- \* 感染防止のため、ミュージアム・トークなどのイベントは中止します。
- \* 近代美術館、県立図書館・文書館、稲むらの火の館でも、濱口梧陵生誕200年を記念した展覧会などを開催しています(詳細はチラシをご覧ください)
- \* 今年3月に刊行した『「災害の記憶」を未来に伝える』(右写真)を、来館していただいた方で、希望される方に無料配布します(先着3000人)。
- \* 見学の際、使っていただけるワークシートを用意しています。ワークシートは、当館ホームページからダウンロードすることができます。



担当者 県立博物館学芸課 主任学芸員 前田正明

[添付資料]チラシ、展示のみどころ)

画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ、送付いたします。  
 admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

## 【展示のみどころ】

①濱口梧陵ゆかりの資料を紹介します。



せ ば た あ り だ ぐ ん は ま ぐ ち ぎ へ え  
**背旗「有田郡 濱口儀兵衛」** **稲むらの火の館蔵**  
よ り い し た じ き ん ぱ く  
鎧の背に指した小旗で、下地に朱を塗った紙に、金箔を貼った「金の丸」を縫い付け、「有田郡 濱口儀兵衛」の黒い文字を貼り付けています。安政3年(1856) 梧陵は救済事業の功勞で独礼格どくれいかくを与えられており、それ以降に使用されたのではないかと考えられます。  
〔展示番号35〕

②広村を襲った安政地震津波の資料を紹介します。

教科書にも掲載された「津波の様子」(安政聞録)を展示します。



あ ん せ い ち ん ろ く は る た え い し ょ う ひ つ よ う げ ん じ ぞ う  
**安政聞録 古田咏処筆 養源寺蔵**

広村出身で銚子(千葉県銚子市)で醤油醸造業を営む古田咏処が描きました。津波の様子のほか、梧陵による被災者救済や復興の様子、全国の地震津波の被害状況を記した「大日本邦全図」なども収録されています。〔展示番号24〕

臨場感あふれる「津波の様子」が描かれています。



か え い し ち ね ん た か う み の ま え ん ぐ 光 じ ぞ う  
**嘉永七年高海之図 円光寺蔵**

広村の浜に近い円光寺に残されています。作者や制作時期は不明ですが、荒れ狂うように川を遡上する津波の描写から、津波の恐ろしさが伝わってきます。〔展示番号27〕

③村の祭礼が、「津波の記憶」の継承へとつながっていきました。



ひ ろ は ち ま ん じ ん じ ゃ さ い れ い ぎ ょ う れ つ す  
**広八幡神社祭礼行列図 和歌山県立博物館蔵**

毎年8月15日に広八幡神社で行われた、御旅所までの渡御行列とぎょぎょうれつを描いたものです。安政大津波の翌年も渡御行列は行われたようで、津波に襲われた日(11月5日)にも神社に集まって神事を行い、最後に餅投げをおこなっています。災害復興のなかで、梧陵の事績と「津波の記憶」を継承しようとする営みが行われていました。

〔展示番号15〕